

# 乗雲

寺報 第 68 号

H19.3.1 発行  
広蔵寺

〒959-2646 新潟県  
胎内市西栄町 2-8  
TEL0254-43-2419  
FAX0254-43-4560  
振替  
00650-4-5381

住職 神田英俊

E メールアドレス  
zen@kogonji.jp



大本山永平寺 神田英俊老師焼香師記念 平成18年御征忌

修行中の長男孝純（全堤）と撮影 H18.9.25 於大光明蔵

善き人の香りは風に逆らいて薫ず

薫習（くんじゅう）という言葉が仏教にあります。「薫じ」「習う」という語を合わせて「薫習」と言います。

煙草を吸う人といっしょにいると近くにいます。タンスにしまつておいた衣服も季節が変わって着用しようとするので防虫剤の匂いが染みついてることがよくあります。

お寺では毎日お香を焚きますが、香り良いお香が本堂中に行き渡り、いつの間にか身に付けている袈裟、衣にまで清らかな香りが移ります。煙草も防虫剤もお香も知らず知らずのうちに徐々徐々に他のものに匂いや香りを移してゆきます、これが薫習です。

「子供は親の言うとおりににはならないが、親のするとおりになる」とか「子は親の生き写し」などとよく言われます。家庭での何気ない言葉、行い、普段の日常生活が子供に薫習されて善くも悪くもなつてゆきます。

毎日毎日怠らず仏道を修行し、教えの如く実践している人は、その生き方が良き香りとなつて周囲に良い影響を及ぼします。たつぷりと仏法の中に浸かっていると意識しなくても仏教の教えが薫習していきます。良き香りを自分に、周囲に薫習させましょう。

言葉覚えて喋る九官鳥はその家庭環境をそのまま映し出します。次第にその家庭に染まり日常会話の「バカ」「こら」「アホ」が反映されます。お寺で飼っている九官鳥は内線ブザーの「ブーブー」の真似が大得意、これも毎日頻繁に鳴る東堂さんからの呼び出し音が薫習したものが。恐ろしい！